

流行ニュース:

<炭疽、アメリカ合衆国(フロリダ)>

疾病管理予防センター(CDC)は、10月5日に死亡したフロリダの男性の肺内から炭疽菌が確認されたことを報告した。担当者は、第一罹患者の同僚の鼻から炭疽菌を発見した。彼らは共に Boca Raton の新聞社に勤務していた。CDC は他の従業員や来訪者への感染の危険性は非常に低いとしている。疫学的調査は継続中で、WHO は引き続き最新情報を提供する予定である。肺炭疽はアメリカ合衆国では非常に稀であり、25年前の発生を最後に20世紀に18例が報告されているのみである。炭疽菌は感染動物との職業上の接触や感染した食肉を通して人体に侵入する。肺炭疽の症状としては発熱・筋肉痛・疲労感があげられるが、急速に全身に広がり重篤になる。発症前の抗生物質投与は予防効果がある。炭疽菌ワクチンは予防効果があるが、一般には推奨されていない。

<クリミア・コンゴ出血熱(CCHF)のメディア報道、パキスタン>

パキスタンのアフガニスタン国境付近で8人の死亡を含む75人のCCHFウイルス感染が報道された。パキスタンのWHO事務所などが調査したところ、状況は以下の通りであった。この地域では毎年この病気が発生するため、2001年9月にクエッタの病院にCCHF患者治療のため特別病棟が開設されたが、そこへ4例の疑わしい患者が入棟した。患者は全てパキスタン在住者であり、前週に発症し、互いに接触した形跡はなかった。検体はイスラマバードの国立予防衛生研究所に送られた。パキスタンにおける2001年のCCHF疑い症例報告総数は、12死亡例を含む41症例である(3月から10月にかけて発症)。死亡例2例を含む6例(5月から8月にかけて発症)はアフガニスタンで感染し、パキスタンで治療を受けた。CCHFはウイルス性出血熱であり、ダニを媒体に伝染する。寒気が近づくに従いウイルス伝播は数週間以内に終結すると予測される。

<黄熱、コートジボアール(最新情報)¹>

10月8日、厚生省は黄熱の疑診報告症例203例(死亡21名)と確定診断症例23例を報告した。アビジャンでは、55症例(内7例は死亡)が疑い例であり、7例が確定診断例である。アフリカにおける10年来の黄熱の都市流行に応じて、9月21日から10月2日までの間に大規模なワクチン接種キャンペーンが行われ、2,610,994人がワクチン接種を受けた。ワクチン投与後の有害反応のためのサーベイランス・プログラムに59人が登録されたが、全員元気である。

WHOはユニセフとともに、集団発生の警戒と対応の世界ネットワーク(Global Alert and Response Network)に属する協力団体からの国際技術援助の調整に携わっている。現地の赤十字社からの660名のボランティアは、この大規模キャンペーンに際して社会動員活動と実施に重要な役割を果たした。WHO、CDC、そしてフランスのEpicenterは、コートジボアールにおける黄熱病の国家規模のサーベイランスに対し疫学上の支援を行っている。パスツール研究所(ダカル、アビジャン、パリ、リヨン)からの専門家はウイルス学的診断のためのPCRの構築に携わっている。

WHOとユニセフは、110万US\$相当のワクチンと物資を提供してきた。ワクチンと物資の調達と輸送には、国境なき医師団、赤十字社、ユニセフ、そしてWHOが共同して、ワクチン供給国際コーディネーターの黄熱部会を経て行われている。その活動のための財源を確保するため、さらなる基金が緊急に必要である。

参照:¹(No.40, 2001,p309)

今週の話題:

<ワクチン由来ポリオウイルス関連の急性弛緩性麻痺、フィリピン、2001>

2000-2001年間にドミニカとハイチ(ヒスパニオラ島)で起きたワクチン由来ポリオウイルス(cVDPV)の流行(No.49,2000,pp397-398参照)に伴い、ポリオ研究世界ネットワークでは研究中のすべてのポリオウイルスに追加検査を実施した。ポリオウイルスが、野生型かワクチン由来かを決定するために、抗体(ELISA)と分子体(probe hybridization)の両者が用いられた。同一血清型内分化による不一致の結果に対して、塩基配列決定が必要になる。過去の急性弛緩性麻痺(AFP)の1954ワクチンの分析では、新たなcVDPVは発見されていない。しかし、正確を期すために研究ネットワークによるさらなるテストを実施した中に、フィリピンでcVDPVが検出された。

フィリピンで2001年3月15日~7月26日の間にcVDPV関連のAFPが3例報告された。それらの症例は経口ポリオワクチン(OPV)を服用した既往のある8歳、2歳、14ヶ月の小児であった。2歳児は髄膜炎の症状があるものの7月23日時点で末梢神経麻痺はない。8歳、14ヶ月の両児童は、麻痺を呈している。3症例のウイルス検査から、サビンワクチン菌株型由来の1型ポリオウイルスが発見された(遺伝子配列が3%異なる)。その3人のポリオウイルスは同じではないが、互いに密接に関連(>99%の相同性配列)し、遺伝子の非カプチ

ド領域におけるノンポリオエンテロウイルスと同じ組換え体を共有しているようである。

フィリピン衛生局の対応は;(1)病院および保健所での AFP 症例の記録をもとにサーベイランス機能の向上、(2)無菌性髄膜炎のウイルス学的調査のためのサーベイランスシステムの確立、(3)症例と接触した健康者の検便、(4)cVDPV 伝染の範囲を決定するためのフィールド調査の実施、(5)地方自治体のポリオワクチン接種適用範囲の決定、を挙げている。cVDPV 感染を阻止するために大規模な OPV によるワクチン接種キャンペーンが計画されている。ワクチン接種率の低さは、cVDPV 発生の最重要原因の一つである。野生型ポリオウイルスは 1993 年フィリピンで報告され、1997 年に全国ワクチン接種日 (NIDs) が制定され、1998 年と 1999 年には地域別ワクチン接種日 (SNIDs) も制定された。SNIDs は、ミンダナオ地域とセブ、ダバオ、およびマニラの都市部を網羅していたが、今回 cVDPV が報告された 3 州には適用されていなかった。1990 年前半以来、全国の約 80% が接種を受けたが、スラム地区は接種適用範囲の狭間になっているように思われる。

<狂犬病、アジア>

全世界の狂犬病死亡者の 90% がアジアから報告され、その推定死亡者数は約 4.5 万～5.5 万人である。また、これらのうち約半数は子供である。この地域では、狂犬病に侵された患者の殆どは適切な医療を受けていないかあるいは全く医療を受けていない。狂犬病は現在では予防接種により 100% 予防できるにもかかわらず、これらの諸国では狂犬病を重篤な疾病と考えておらず、有効な予防策が採られていない。また、ヒト狂犬病治療のための免疫グロブリンが欠乏状態にある。

WHO では 2000 年 7 月に専門家らによる対策会議を開催した。アジアの多くの地域では、有効な細胞培養によるワクチンではなく、未だに効果の乏しい旧型の粗雑な神経組織ワクチンを使用していること、さらに疫学的調査の欠如、住民の意識向上に対する教育の欠如などが問題とされた。アジアの中でも、日本、マレーシア、台湾、中国、タイ、ヴェトナムでは適切な予防対策がとられ、ヒト狂犬病の発生はかなり減少している。

対策として、保健行政担当の中央官庁に担当者を置く、国内の狂犬病監視システムの開発、市民教育プログラムの実施、飼い犬に対する狂犬病予防ワクチンの接種、野犬の捕獲、旧型ワクチンの使用中止と新型ワクチン予防接種の実施、そして新型ワクチンと免疫グロブリンの製造技術指導と輸送手段の改善による供給確保の必要性が提言された。特に各国は包括的な狂犬病対策プログラムを策定し、それを効果的に実施するための政治的・財政的支援の重要性が指摘された。

<災害保健ライブラリー>

災害及び紛争に関する公衆衛生情報に関する世界的規模の図書館が設立されている。英語、フランス語、スペイン語による文献 250 以上が収録された CD-ROM や疫病による緊急保健活動のテキストなどの緊急保健図書キットが加盟国及び国際機関で利用できるようになっている。概要は <http://www.who.int.aha> および <http://www.paho.org.english.pedhome.him> で入手できる。

災害に関する技術的、科学的情報などで構成される電子図書館もインターネット上に設置され、<http://www.helid.disasters.net> のアドレスで 24 時間無料開放されている。WHO では世界の災害予防に対応するため、最新の情報提供を実施している。詳細は disaster-publications@paho/org または aha@who.ch まで。

流行ニュースの続報：

<インフルエンザ>

カナダ (2001 年 10 月 2 日) カルガリーで A 型ウイルスが検出された。フランス (2001 年 10 月 2 日): 9 月最終週のインフルエンザ様症状の発生率は流行レベル以下の人口 10 万あたり 35 人であったが、2 地域ではそのレベルを超えていた。ハンガリーでは発生なし。ポーランド (2001 年 10 月 8 日) では、10 月の第一週目にインフルエンザ様症状が増加したがウイルスは検出されていない。イギリス (2001 年 10 月 3 日) では、受診率は流行レベル (10 万人当たり 50 人) 以下であり、A 型 (3 例)、B 型 (1 例) のウイルスが検出された。

(西海ひとみ、篠田峰子、篠原英記、宇佐美眞)